



# コルテス 伊藤の我が音楽人生

## 第8回 JAZZ、ROCKの今

先生方いかがお過ごしでしょう。自分の体調管理もしなければならぬ今日この頃、いろいろな数値に振りまわされて(笑) いらっしゃいませんか？

音楽業界もフェスが終わり、一段落というところでしょうか。今の音楽業界は正直申しまして、何か間違えているような気がします。フェスのようなお祭りは、果たしてコアな音楽ファンをきちんと考えてくれているのだろうか？ 演奏もせずに口パクで、踊りを踊っているだけのカワイ子ちゃんがメインのステージを張って良いのでしょうか？ 納得できない親父もいることを考えてください(笑)。

今回は「JAZZの今」ということで、あくまで私の独り言くらいで聞いてください。私のJAZZへの関わりは、今までの投稿で大体お伝えはしたと思います。いわゆる、3大レーベル、ブルーノート、プレステッジ、リバーサイド、またアトランティックとか、そんなレーベルがJAZZを育ててきたといっても過言ではありません。全部を聴いてはおりませんが、今でもそれを愛しそれしか聞かない堅いJAZZファンは多いと思います。それが良いか悪いかは別に、新興レーベル(といっても歴史はありますが)のECM、ENJA、

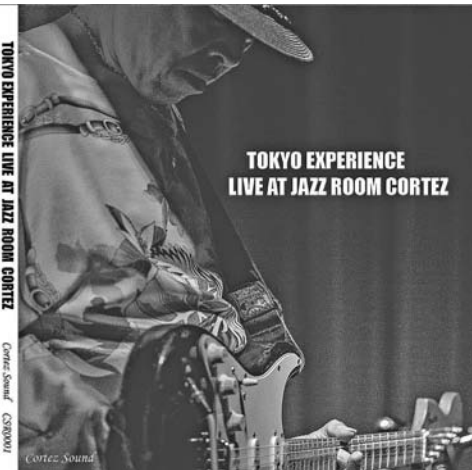
STEEPLECHASE、CBSなどもっとマイナーだとMPS、CADET、この辺りまで網羅している方は意外と少ないかもしれませんね。

忘れてましたが、VERVEは私にとっては今でも何となく中途半端なレーベルにしか感じられなくて、良いアルバムの宝庫なんですけどね。

店では、女性ヴォーカルを中心に、といってもほとんど女性ヴォーカルしか聴かない人とか、ピアノトリオオンリー、ビッグバンドオンリーとか、個性豊かな人たちが日々喧々譁々に討論を戦わしています(笑)。フリージャズという分野がございまして、お客様に好きな方が一人いました。正直、一番敬遠していた分野なんです、食わず嫌いというか、聞かず嫌いというか、いろいろ聴かされているうちにだんだん良くなってきてます。

また、日本人JAZZの素晴らしさに気付いたのもこの頃でした。前にも

申しましたが、オーディオファン、レコードコレクター、LIVEのファン、そのベクトルはなかなか同じ方向には向かず、その3方向を持った人は経済的に破綻をきたすようです(笑)。現代JAZZはCLASSIC JAZZとは一線を隔し、個性豊かなオリジナルティをもった新進気鋭のミュージシャンが相当育ってきています。テクニックもあり、今後楽しみです。ベテランJAZZファンもぜひぜひ聴いてみてください。目からうろこならば、一歩成長したと感じてください。



「ROCKの今」として、CORTEZではJAZZ喫茶なのにROCKのLIVEを時々やっております。ROCKファンの先生方もぜひとも、ホームページを見て下さい。

実を言うと、現代のROCK事情は正直分かりません。自分がフジロックに行っていたころはOASIS、TRAVIS、COLDPLAY、MUSE、日本のROCKでは浅井健一、ナンバーガールなど、その頃に出会ったROCKしかわかりませんが。オールドROCKならお任せありで、今でも当時のLPレコードで店内には堂々と飾られております。CORTEZで

行われたROCK BANDはLED ZEPPELIN、WISHBONE ASH、JIMI HENDRIXです(もちろんトリビュートバンドですよ)。

しかし、皆さん素晴らしいLIVEを繰り広げられまして(笑)、何とJIMI HENDRIXをやりましたTOKYO EXPERIENCEは、CORTEZでのLIVEを二枚組のCDとして正式に発売しました。DISK UNIONからの流通で、全国発売になっております。もちろん発売元はCORTEZ SOUND。ROCKのCDを発売してしまいました(笑)。

店を始めて気付いたことは、感動を与えるものならばジャンルは関係ないという、わかってはいたことなんです、改めて実感している次第です。

先生方もいろいろなお趣味をお持ちだと思いますが、歳を経るごとにどっと深くその趣味に入っていた、とことん浸かってほしいです。

いつもお話にお付き合いいただきありがとうございます。最近、人に会うたび痛いところない？ 何の薬飲んで、次の健康診断はいつ？ そんなことばかり言う歳になってきましたが、一度しかない自分の人生。頑張って働き、楽しくかっこよく歳をとっていきましょう。

今回は、「どこいくCORTEZ 血迷ったかCORTEZ」と題してお届けいたします。

(ひたちなか市

伊藤歯科医院・伊藤輝彦)